

新年特別号

歴史と未来への継承である 『知的財産権の紋章』制作について

制作秘話：デザイン・装丁技術・製本技術 本づくりにかける情熱
～『世界の知的財産権』著 大樹七海より～



芸術・科学・知財クリエイター・弁理士（雅号）
大樹 七海

はじめに

『厳しい中を生きていく。それも新たな歴史の1ページとなる』



『世界の知的財産権』 撮影 大樹七海

明けましておめでとうございます。近年の激動の変化は、人類の歴史からいっても、異常なスピードで起きているといえます。人類のかたちが出来てから20万年くらいのところ、産業革命以降の200～300年足らずの進化のスピードは急激過ぎて、世界はついていけておりません。

急激な変化、それは突然起きた未曾有のコロナ禍や、動植物の生存が危機的水準に向かっていく地球温暖化、ウクライナ・ガザ・レバノン等の世界各地での戦火拡大の状況、AIの進展など、目に見えて世界が社会に対して、我々（と、我々の住む地球）に対し、急激な変化に対応するよう強要し続けている状況にあります。

本誌『知財ぷりずむ』の読者の皆様方にあっては、この急激に変化し、先の読めない社会情勢の中において昨年も懸命な知財活動が続けておられ、そして本年においても、模索しながら、光明を見出すべく歩んでいかれるだろうこ

とを、その一員として、同じく決意している次第です。

『厳しい中を生きていく。それも新たな歴史の1ページとなる。』

皆様とともに、筆者も知財界を通じて、世界の健全なる発展を目指し、そのための活動を更に続けていく所存です。

1. 新年活動開始の抱負をこめて

歴史と未来への継承である『知的財産権の紋章』について

年頭今号は、新年特別号と題しまして、皆様に『知的財産権の紋章』の制作秘話をお届けします。

この『知的財産権の紋章』というのは、『知的財産権制度』が普遍的に未来に受け継ぐ総体的イメージを、歴史的意義をデザインとして継承してきた紋章学に則りデザイン化して、一目でその重みをわかるようにした絵です。この紋章には、『知財制度の歴史』が詰まっています。知的財産権制度の誕生と発展は、まさに歴史の一ページを紡ぎつつある我々の活動の端緒となります。新年活動開始の抱負を込めて、あらためてご紹介しておきたい、と思った次第です。

2. 『知的財産権の紋章』を創作した意義

『知的財産権の紋章』は、『世界の知的財産権』（著 大樹七海 経済産業調査会）による書籍の装丁の一部です。

同書は、知的財産権に関する法律・制度の解説書でありながら、冒頭に人類の知財史の物語を置き、同物語と歴史及び学術的な論考を継承した上で、『知的財産権の紋章』という新たなデザイン（美観）を創出、表紙と扉に設けて装丁しました。



INTELLECTUAL PROPERTY RIGHT
知的財産権の紋章 2021年5月10日 作 大樹七海



『世界の知的財産権』扉絵 知的財産権の紋章 作 大樹七海 撮影 大樹七海

「知的財産権の紋章」を創作した意義は、哲学や歴史学、及び人文科学や法律学などの社会科学、並びに物理学や化学や生物学などを含む自然科学などの総称としての「学問」及び「芸術」を継承した上で、その上に、無限の可能性のある知的財産を創出する、という精神を高らかに謳うことであり、これを表現したことにあります。（『世界の知的財産権』扉絵の解説より抜粋）

3. 書籍『世界の知的財産権』について

『世界の知的財産権』は、初版が令和3年に経済産業調査会より出版され、異例の話題を呼び、人々の記憶に刻まれるベストセラーとなった、世界の知的財産権制度とその歴史を網羅した本です。世界の特許出願件数の約8割を占める日本・米国・欧州・中国・韓国・台湾およびWIPOの諸制度・諸施策に関し、法務全般に渡る重要事項を網羅的に取り上げ、体系的な知識と情報を1冊に集約し、世界の知的財産権制度を広く横断的に見渡せる様に構成されていることが、今までにない特徴です。この横断的で画期的な試みは知財界に広く歓迎され、今後多種多様な世界のトップを走る知財界のプロフェッショナルな方々のご支援を、更に賜ることのできる制作環境が整ってきている次第です。

収録内容：産業財産権（特許権・実用新案権・意匠権・商標権）、著作権、種苗法、GI保護制度、不正競争防止法、独占禁止法、関連周辺法域（知的財産権基本法、外商投資法、条約等）